

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

上木戸	豊1丁目
上木戸1～5丁目	
材木町	
下木戸	
下木戸1～3丁目	
竹尾	
竹尾4丁目	
寺山	
寺山1～3丁目	
中木戸	
はなみずき1～3丁目	
牡丹山3～6丁目	

●位置図

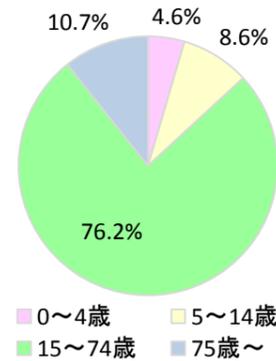


●施設・団体

市役所・区役所等	東区役所
警察・消防	木戸交番
消防団	東方面隊 木戸分団
水防倉庫	—
一時避難場所	—
広域避難場所	—
主 利な 用要 施設 配 慮者	幼稚園・ 保育園 牡丹山幼稚園／牡丹山ひかり保育園、上木戸保育園
	高齢者 福祉施設 あしぬま荘、カナン、ほほえみの里 きど、徳蓮荘、風の笛
	障がい者 福祉施設 自活支援の会G&T、HUG、ぱんびくらぶ、ワーカーズゆたか、ほがらか福祉園トウインクル、ほがらか福祉園、ファースト、ふれんど・ぴあ

●人口

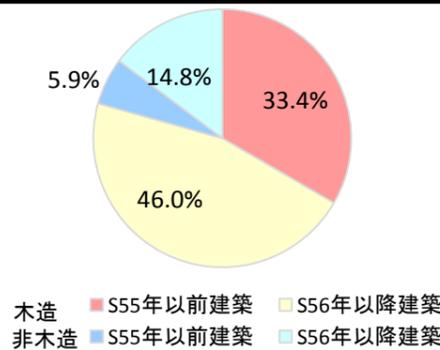
総人口	15,399人	地区の割合	市の割合
0～4歳	701人	4.6%	4.0%
5～14歳	1,324人	8.6%	8.5%
15～74歳	11,728人	76.2%	74.6%
75歳～	1,646人	10.7%	12.9%
65歳以上人口	3,549人	23.0%	26.0%
世帯数	6,792世帯		
一世帯あたり人口	2.3人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	4,268人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	13,699人	夜間の89.0%	



●建物関連指標

総棟数	5,780棟	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,928棟	33.4%
	S56年以降建築	2,659棟	46.0%
	計	4,587棟	79.4%
非木造	S55年以前建築	340棟	5.9%
	S56年以降建築	853棟	14.8%
	計	1,193棟	20.6%
S56年以降建築物	3,512棟	60.8%	52.4%

S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]牡丹山小学校	1.1	4	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ][ツ]木戸中学校	1.1	4	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ]はなみずきコミュニティハウス	1.0	2	○	×	2階以上	—
[ツ]東区役所	0.2		—	3階以上	—	○
[ツ]木戸病院	1.7	9	—	3階以上	—	—

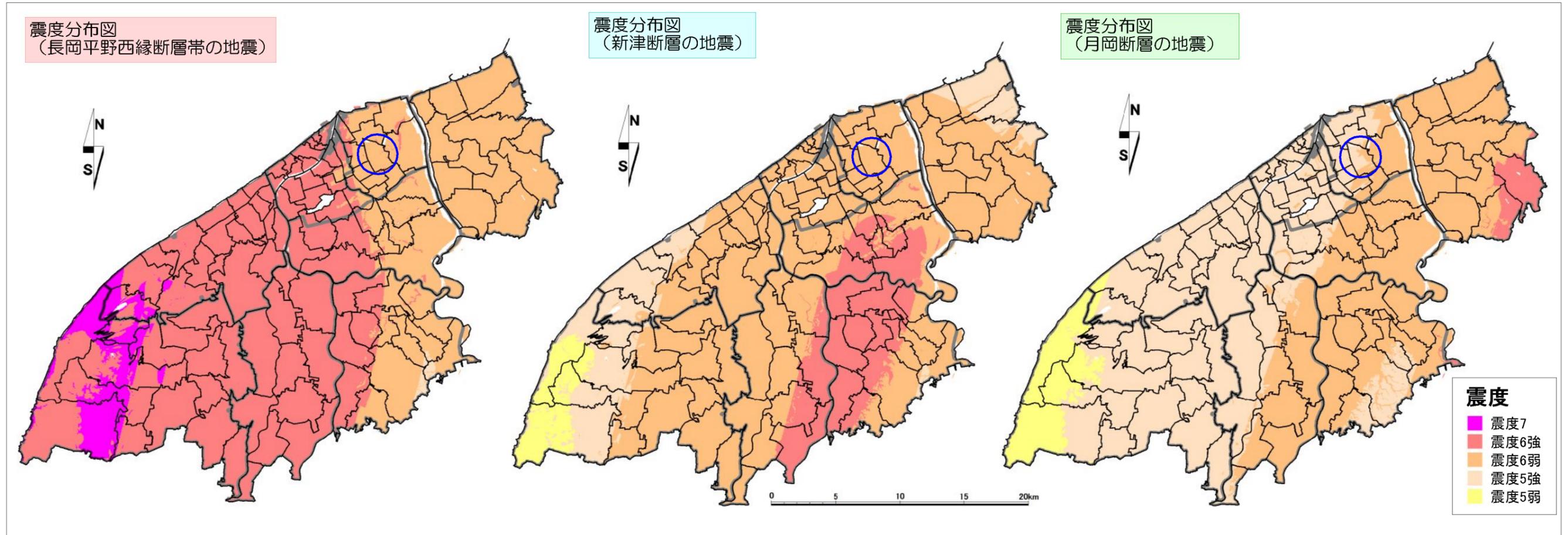
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]東山の下小学校	0.8	4	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ]藤見中学校	15.3	4	○	—	全階可	—
[ヒ]新潟東高等学校	4.4	4	○	—	全階可	—
[ヒ][ツ]竹尾小学校	0.9	4	○	3階以上	2階以上	—
[ツ]イオン新潟東店	1.5	4	—	屋上駐車場	—	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・避難可能な階数、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液化化の可能性がある。 津波による浸水は、地区の広い範囲で想定されている。
水害・土砂	阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、通船川流域の洪水及び鳥屋野潟流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、阿賀野川の洪水では、地区のほぼ全域で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

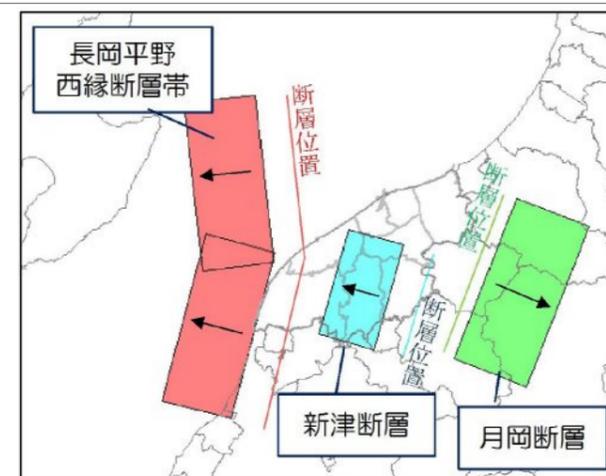
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

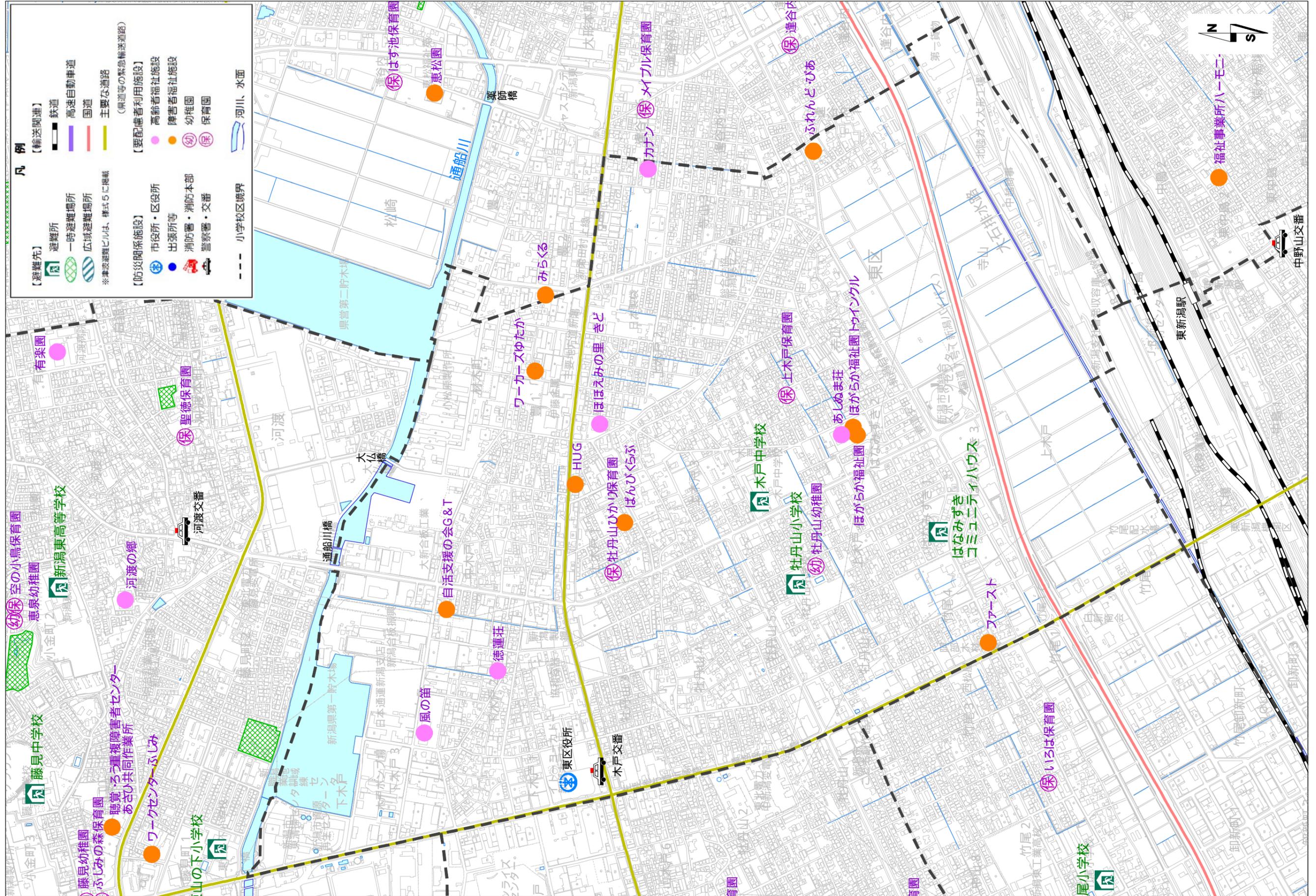
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



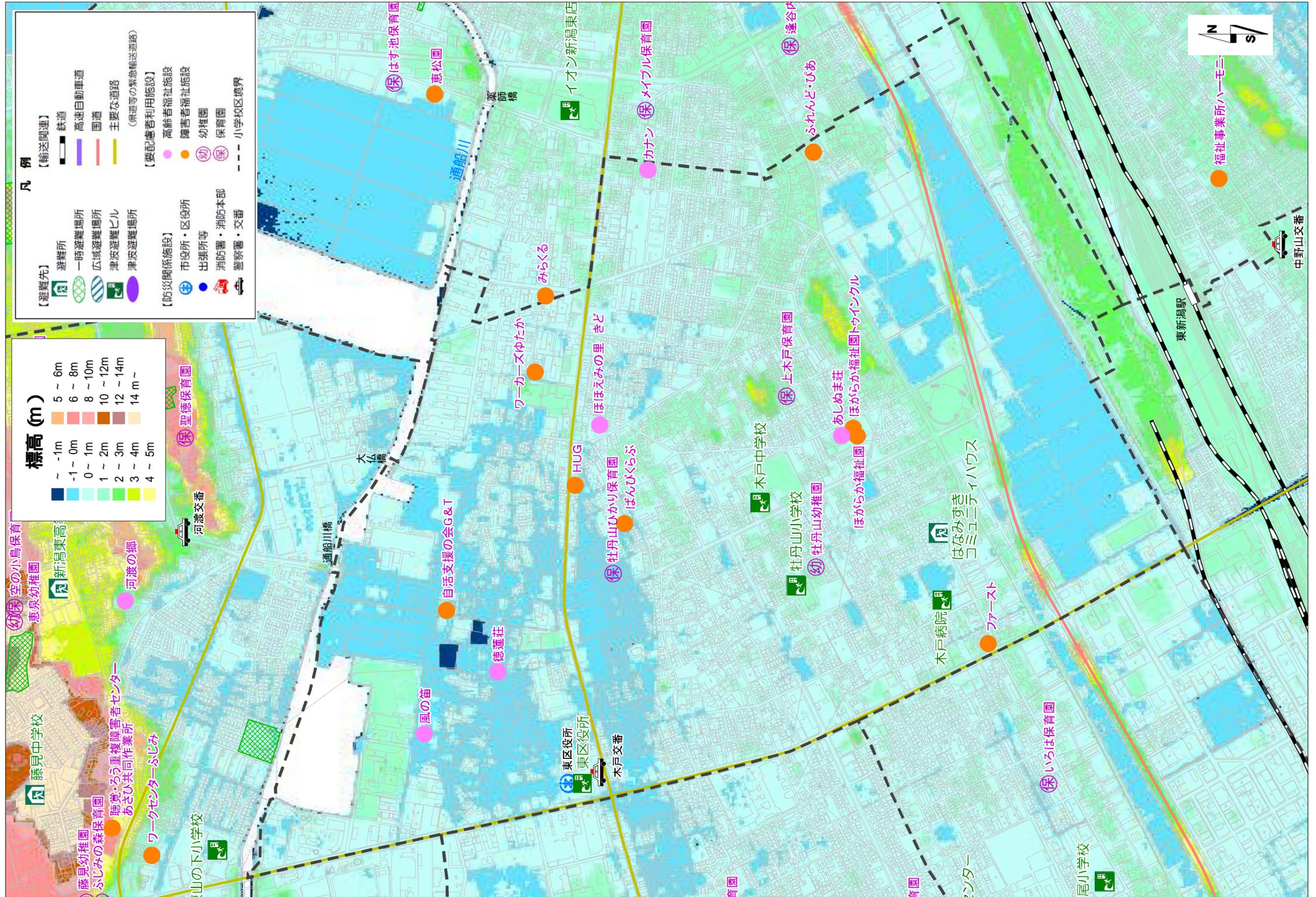
← は、断層の傾きを示しています。



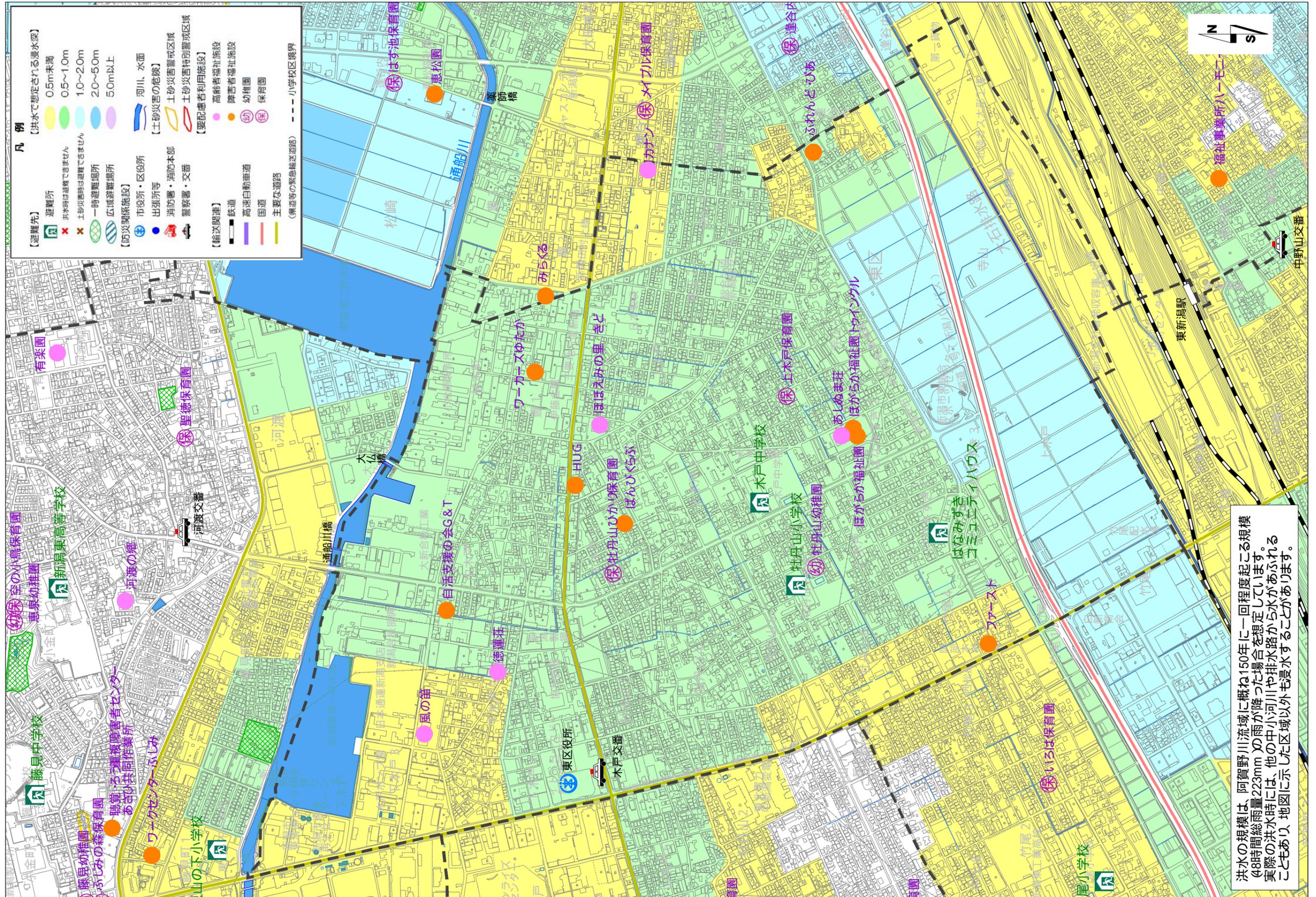
[出典] 棋盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)



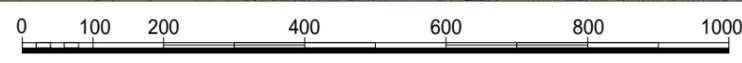




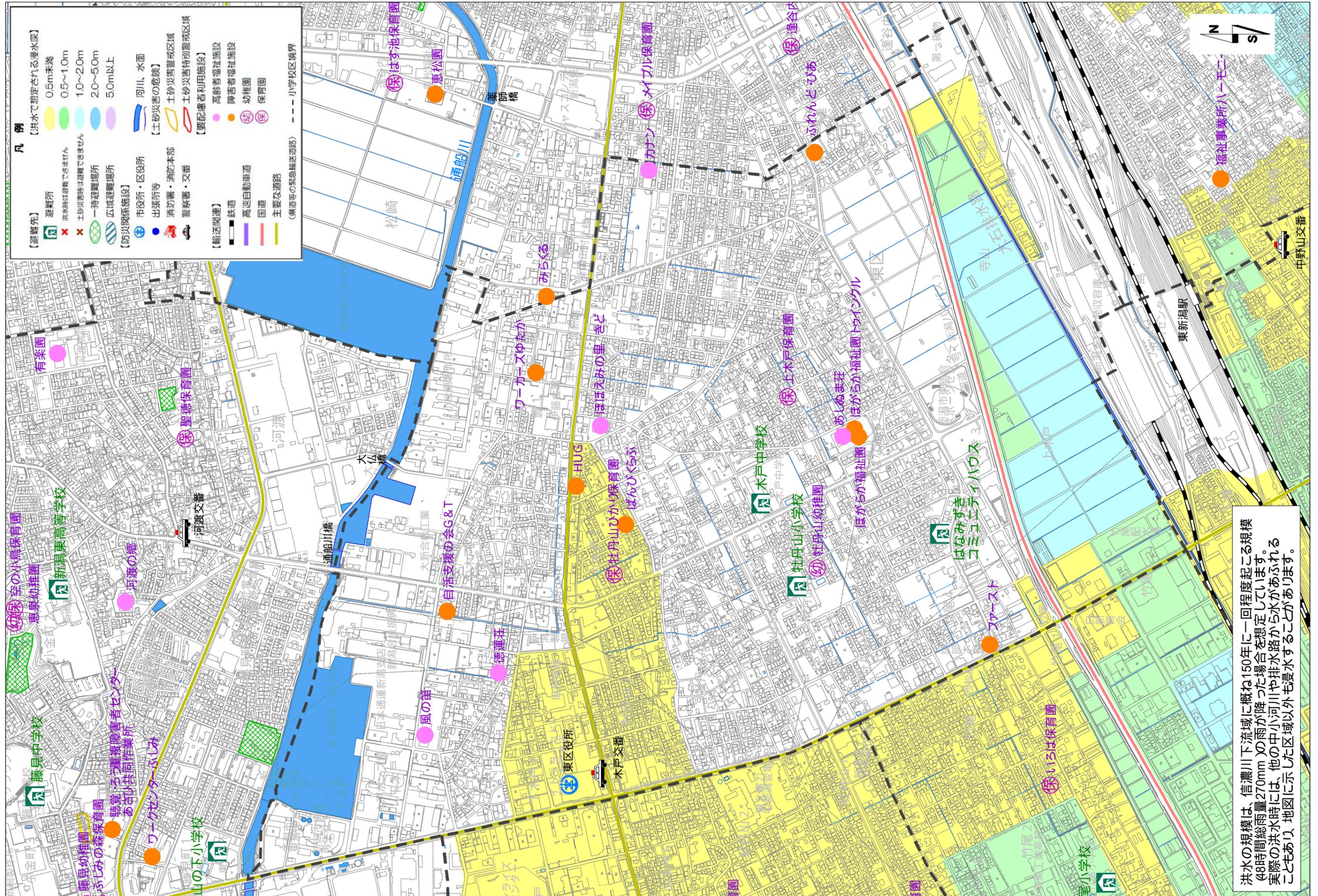
0 100 200 400 600 800 1000m



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)

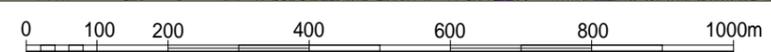


様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

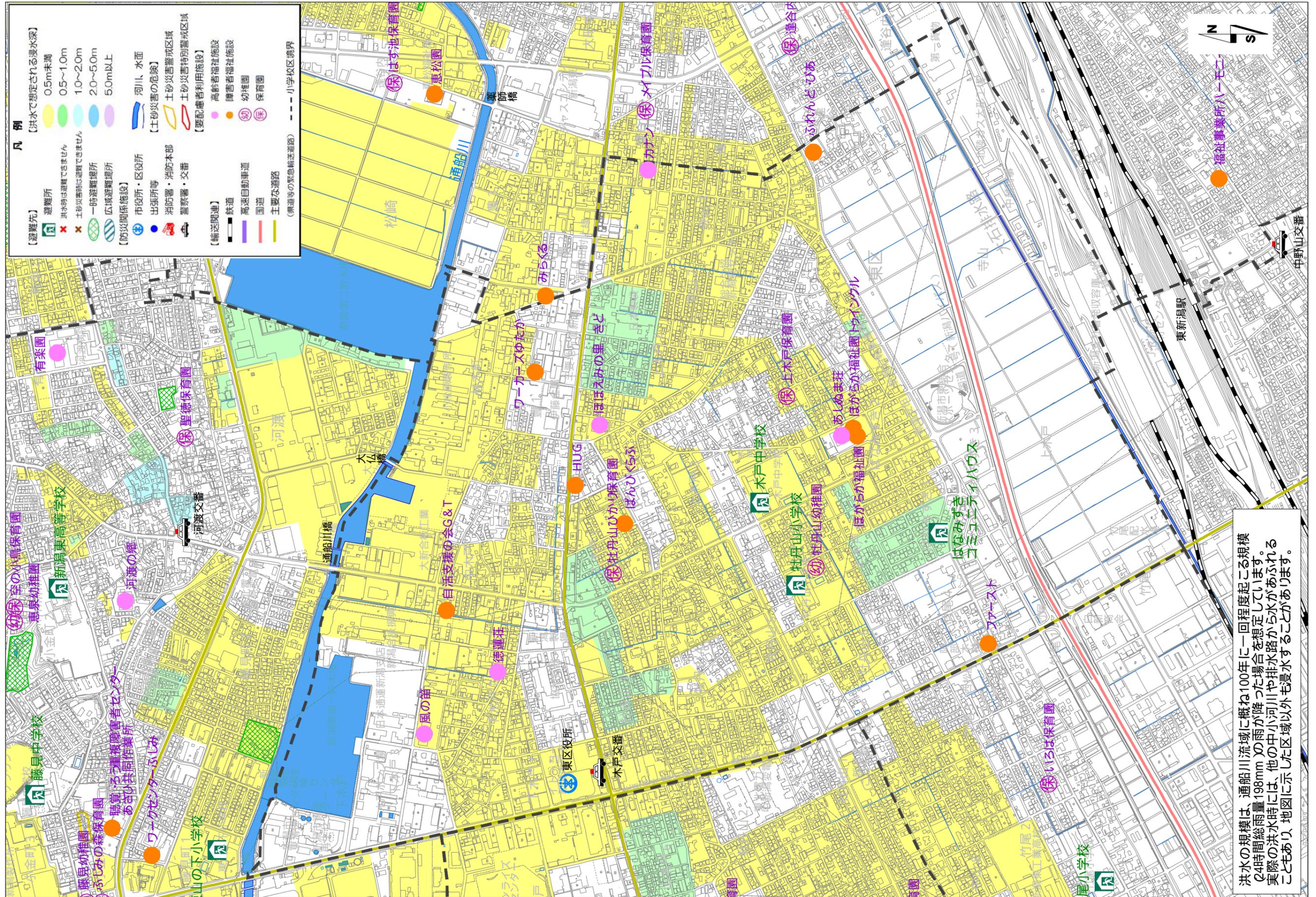


洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（通船川・栗ノ木川下流（新栗ノ木川））



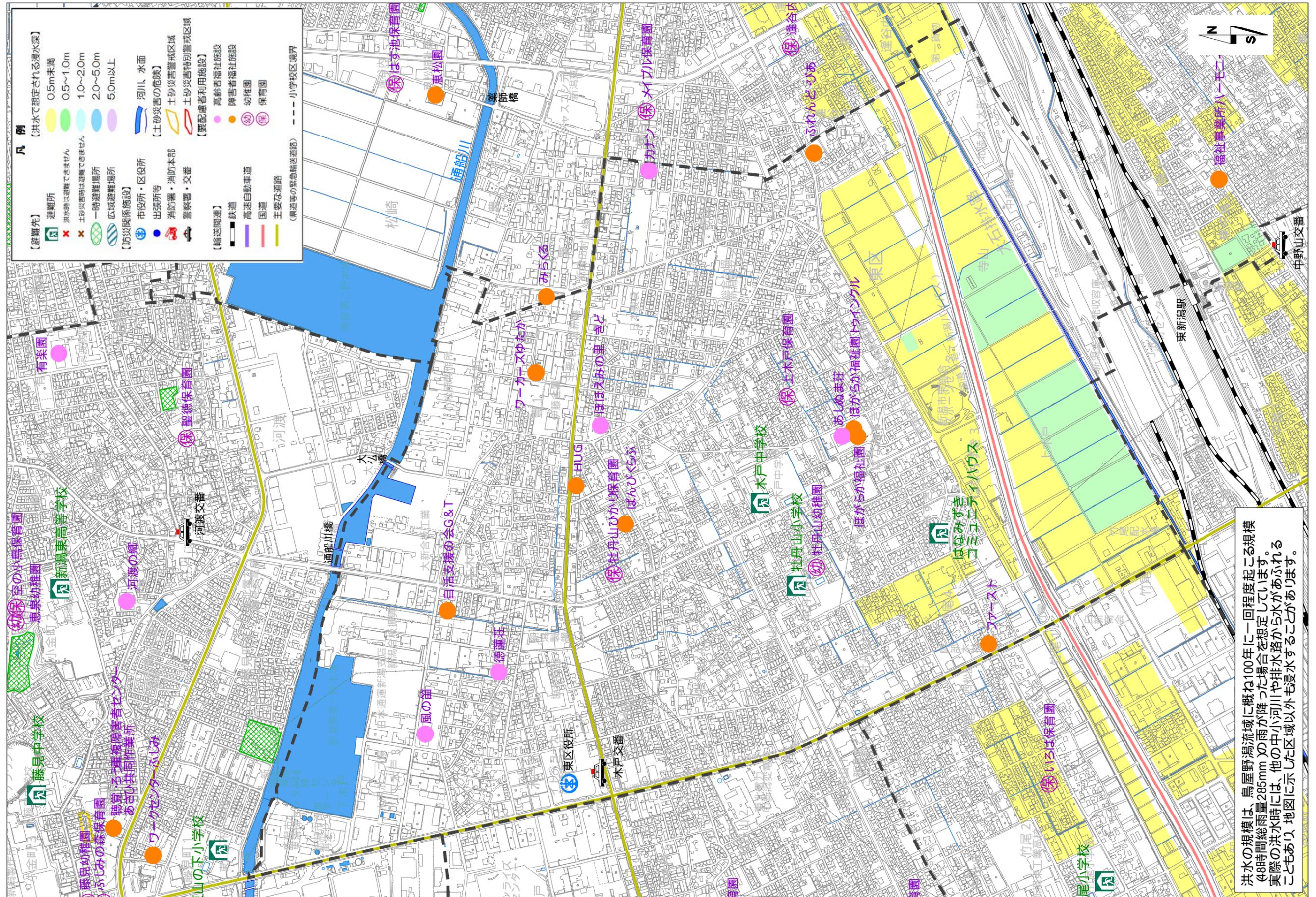
洪水の規模は、通船川流域に概ね100年に一回程度起こる規模
 24時間総雨量198mmの雨が降った場合を想定しています。
 実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれる
 こともあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 通船川 栗ノ木川下流（新栗ノ木川）浸水想定区域（新潟県、平成17年8月25日）



様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（栗ノ木川上流・鳥屋野瀉・鳥屋野瀉放水路）

牡丹山小学校区



洪水の規模は、鳥屋野瀉流域に概ね100年に一回程度起こる規模（48時間総雨量285mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 栗ノ木川上流・鳥屋野瀉・鳥屋野瀉放水路浸水想定区域（新潟県、平成18年8月25日）

